

【奨 励 賞】



氏 名 ゼイヤ ピェーソン
国・地域 ミャンマー
在日期間 10ヵ月
所 属 鹿児島情報ビジネス公務員専門学校

タイトル： 未完成の人生

皆さん、私は、人は環境と関係なく、自分が信じていることを続けられればいいんだと思っていました。しかし、日本に来てから自分自身が大きく変わってしまいました。どう変わったか、今からお話します。

私は以前は人と話すのは苦手でした。私が間違っただけを言ってしまうと、相手に誤解を与えてしまうのはとても怖かったです。そういう間違いをしたくない気分がずっと残って、間違えそうになったら、していることをすぐ辞めていました。それで人と話す時にも重要なことだけ話して、それ以上のことはできませんでした。ですから、人と会うより、自分の部屋で過ごすことが多かったです。

学校以外ではアニメばかり見ていました。家で毎日日本語に触れて、日本に興味を持つようになりました。それで、日本に留学したいと家族に言いました。でも、私は大人しくて、社交的ではないし、日本には知り合いもいないし、ただ一人で新しい国で生活するのは無理ではないかと言われました。でも、情報を一生懸命集めて、なぜ日本に留学したいか、目的は何なのか、留学したら私の人生はどのように変わるか、を説明した後「ぜいやならできるようになるよ」とやっと母が認めてくれました。行ったこともない国、言葉の壁がある国、何があっても頑張ろうと覚悟をして去年の4月に日本にきました。最初、周りに広がる笑顔と会話の中で、私は自分の内向的な性格を強く感じました。このような私を変らせる経験が、初めてのバイトの時にありました。

そのバイトはお寿司屋さんのバイトでした。キッチンでの仕事で最初はお手伝いをしながら、先輩から教えてもらいました。その先輩は、背が高く筋肉もムキムキな60代のおじさんでした。キッチンには、いろいろな仕事があって、私とおじさんがしているのは、ホット言う仕事でした。ホットという名前のおり、ご飯を炊いたり、スープを作ったり、揚げ物を揚げたりします。

バイトに入ったばかりの時、おじさんの動き方を見ているとかなり速くて、若い人よりも多くの仕事ができるのでびっくりしました。私にはまねすることができないくらい速かった。しかも、何もすることがない時にもぼうっとしないで、しなくてもいい、誰にも見えない所にある汚れまでそうじしたりしていました。それを見た私もぼうっとしていることができなくなりました。

それから、毎日おじいさんと私はどちらがもっと速くきれいでできるかを勝負するようになりました。ある忙しい日、揚げ物の注文がいっぱい入って、ご飯を炊くのを忘れてしまって、上司から二人とも怒られました。私のせいなので、おじいさんに謝ると、おじいさんは、「間違えは成功への階段だよ、どんどん間違えて覚えることが大切だからな」と言いました。その話を聞いて、自分のミスから学びながら、仕事に取り込むことができるようになりました。おじいさんは、仕事の合間に話しかけてくれて、つりの話をよくしました。いつか一緒につりをしたいなと思います。バイト仲間も増えてきて、ゲームやアニメの話をよくするようになりました。

でも、この間いろいろあって結局、バイト辞める日、最後のシフトの日に着きました。あの時、同僚達が別れのあいさつをしてくれましたし、その中に一番忘れられないのは、同僚からの手紙です。手紙の内容は、「ホットと一緒に仕事する機会はあまり多くなかったけど、作業に熱心でとても素速く正確に仕事をこなすぜいやさんがとてもカッコよかったです。一緒に仕事する時に話したりする時の笑顔が可愛らしくて、最高に頼りがいのあるぜいやさんとホットで仕事が出来て、とても楽しかったです。」と書いてありました。私の努力、自分を未完成と信じて、ミスをチャンスと思って頑張った結果はこの手紙なのでとても良かったです。

私は友達がいっぱいいる人、何も怖くない人、社交的な人たちは特別だと思っていましたけれども実は、その人たちも努力したから、そういう状態になったのだと分かりました。

日本での経験により、私の人生は、挑戦と学びの連続で、変化し続ける魅力的な物語となっていくと思います。

ご清聴ありがとうございました。

